

Rotary



白河西ロータリークラブ

SHIRAKAWA WEST ROTARY CLUB

創立 1986 年

2022~2023年度クラブ目標

『想像しよう、未来のロータリー
創造しよう、これからのクラブ』



イマジン
ロータリー

会長 高 畠 裕
幹事 車 田 裕 介



2022-23年度国際ロータリーテーマ

第1753回例会

令和5年4月6日(12:30~13:30)

○ソング

- 君が代
- 奉仕の理想

○スマイルBOX

- 阿部克弘会員 (本日は会長代理をさせていただきましたが、しばらくは遠慮したいと思いますので、会長並びに会長エレクトには欠席のない様をお願いいたします。また大住会員には忙しい中、貴重な卓話をしていただきありがとうございました。)
- 大住由香里会員 (お誕生日お祝いありがとうございます。50才目前に金田班長のホームミーティングでドンペリを初めて頂き、それだけで大人になった気分でした♡そんな歳ではありますが、パワーポイントが使えない等まだまだ未熟者ですのでこれからもご指導よろしくお願いたします。)
- 居川孝男会員 (41回目の結婚記念日を迎える事が出来ました。妻のささえに感謝をし、健康で頑張りたいと思います。大住さん、卓話ありがとうございます。)
- 十文字光伸会員 (本日は誕生日プレゼントありがとうございました。これからもロータリー活動を楽しんでいきます。)
- 永野文雄会員 (阿部克弘副会長、代理ご苦勞様です。大住由香里会員、卓話ありがとうございます。)
- 金田昇会員 (大住会員、本日の卓話を楽しみにしておりました。市内の桜も満開でとても良い季節になりましたね！)
- 沼田重一会員 (大住会員、卓話ありがとうございました。介護のきびささと大切さを知りました。)
- 寺島由和会員 (新年度がスタートしました。先月定例異動がありましたが、わたくし残留でございました。皆様、引き続きよろしくお願いたします。)
- 運天直人会員 (高畠年度も残すところ3ヶ月になります。スマイルも最後の追い込みになりますので、皆様どうぞよろしくお願いたします。)

▶第1753回例会出席状況 (R5年4月6日)

Ⓐ 出席免除を受けていない正会員数	52名
Ⓑ 出席免除の適用正会員数	14名
Ⓓ 全正会員数	66名
Ⓒ ①の出席者数	27名
Ⓔ ①のメイクアップ者数	3名
Ⓕ ②の出席者数	6名
Ⓖ = Ⓒ + Ⓔ + Ⓕ (メイクアップ補填後の出席会員数)	36名
Ⓗ = Ⓓ - (Ⓑ - Ⓕ)	58
Ⓘ = Ⓖ / Ⓗ × 100 (例会出席率)	62.0%

白河西ロータリークラブ 第3回愛好会

優勝	沼田 重一	11位	前原 俊治
準優勝	長 克則	12位	高畠 裕
3位	青木 大	13位	成井 正之
4位	永野 文雄	14位	鈴木 孝幸
5位	車田 裕介	15位	須藤 正樹
6位	堀田 一彦	16位	安部 和夫
7位	井上 敬裕	17位	諸橋 和典
8位	運天 直人	18位	水上 泰真人
9位	斎藤 孝弘	19位	吉成 真五郎
10位	居川 孝男	20位	鈴木 恒平

▶例会日: 第1・第3木曜日(12:30) その他の木曜日(18:30~19:30)

▶例会場: 白河市新白河駅前 東京第一ホテル新白河

▶事務局: 〒961-0957 福島県白河市道場小路96-5(白河商工会議所内) ☎23-3101 FAX22-1300

本日のプログラム

■会長の時間

阿部克弘副会長



皆さん、こんにちは。本日はお忙しい中ご参加いただきまして、誠にありがとうございます。今、SAAからもお話がありましたように、高島会長が入学式、佐藤会長エレクトが所用のため欠席ということで、副会長のわたくしが会長代理を仰せつかりました。最近、こういう所でお話する機会も少なかったのも、不慣れな点がありましたらご勘弁をいただきたいと思っております。世の中、今、桜の季節でいっぱいでありまして、SNSなんかも見ますと、桜の花をアップされてる方が大変多くいらっしゃいます。わたくしもそのご多分に漏れずその一人でありまして、3月31日に乙姫桜ですか、そちらのほうに行つてうちの愛犬とホヌ散歩ということでSNSにアップさせていただきました。最近南湖神社のほうに行きまして楽翁桜ですか、そちらのほうも撮ってまいりましてこれからアップする予定でありますので、是非そちらのほうもご覧いただければと思っております。なかなか最近はこの異常気象のせい、桜前線と梅前線というのが日本にはありまして、当然梅前線のほうが行くんですが、桜前線も今早く北上しております、今日、青森県のほうでは梅が開花したと。一番、最速のようです。また、4月11日前後には桜が開花するというので青森県が今、桜前線と梅前線がデットヒートを繰り返してるところみたいですね。本来は、北海道のほうに行つてからのデットヒートになるようなんですが、やはり温暖化のせい、そのような傾向になってるようでもあります。さて私も今SNSの話をしましたが、毎朝、元法務大臣の岩城光英さんが毎日朝早くにアップをしております。それに対して、いいねとコメントをやっておりますが、今日は北極の日とコンビーフの日というふうな岩城先生は書いておりました。調べてみますと、北極の日というのは1909年くらい、ロータリーができて間もなくの頃ですか、アメリカの探検隊が北極に到達したという日だそうです。また、コンビーフの日というのは1875年ですか。アメリカの企業がそのコンビーフの缶詰が変わった形してますね。枕みたいな感じ。その特許を取った日が、なんかそのような日だというふうになっておまして、毎日私も楽しみに投稿を見させていただきます。自分も折に触れて投稿しておりますが、毎日投稿するというは大変難しい、よくやってらっしゃるなど。先生は73歳にもなっておりますが、毎朝ジョギングをされてるようですので、まだまだ私も今65歳ですが、負けないうで頑張つてやっていきたいというふうな思っております。今日は、これからいろいろとメニューも揃っておりますので、会長の時間はこの辺にしておきたいと思っておりますが、どうか今日一日よろしくお願ひいたします。ありがとうございました。

■幹事報告

村上堅二副幹事



- ガバナー 佐藤正道：訃報
- 白河ユネスコ協会会長 小野利廣：令和5年度白河ユネスコ協会第1回役員会の開催について（通知）
- 日本事務局 業務・IT室：環境月間リソースのご案内
- ガバナー 佐藤正道：訃報
- 右近ガバナーエレクト事務所 芳賀美宝子：地区名簿原稿校正のお願い
- 県南分区ガバナー補佐 郡部仁喜、県南分区幹事 味戸雄二郎、須賀川ぼたんロータリークラブ会長 水上哲夫：IMの御礼

■委員会報告

○親睦委員会

根本あゆみ会員

【結婚記念日】

林利勝会員、今井令雄会員、矢田部錦四郎会員、成井正之会員、宮本多可夫会員、居川孝男会員、佐藤幸彦会員、櫻岡敏之会員、島田修一会員、瀬谷隆志会員



【誕生日のお祝い】

関谷亮一会員、宮本多可夫会員、鳴島三夫会員、十文字光伸会員、緑川直人会員、大住由香里会員、上杉謙太郎会員



○雑誌広報委員会

鈴木典雄委員長



皆さん、こんにちは。それでは、今月号の「ロータリーの友」の見どころを発表していきます。まず横組み5ページ、こちら必読となっておりますR I指定記事のR I会長のメッセージが届いております。続きまして横組みの8ページ、ウクライナレポートでロシア軍によるウクライナ侵攻から半年が過ぎた2022年の秋、「ROTARY」の編集長ウェン・ホアン氏がウクライナ西部のリビアを訪れ、そこで暮らす人々の回復力とロータリーの世界的なネットワークの広がりレポートが書かれています。同じくこの関連記事で16ページ。ロータリー財団はウクライナ侵攻によって基金を合計で1,500万ドル以上寄付をし、そのうち日本が330万ドル寄付を占めてるといった記事が載っております。続きまして、その次のページ18ページ。「ロータリーアクトの何が変わったの」ということで、変更点が詳しく書かれてお

ります。続きまして、縦組みの4ページ。「外務省医療官が経験した海外の医療事情」ということで、50歳を過ぎて外務省医療官になられた中井呈子さんが、これまで赴任した、セネガル、キューバ、ブルガリア、ベトナムでの赴任先での思い出や活動などが書かれております。続きまして、縦組みの9ページ。「この人訪ねて」では、今治市で持続可能な林業を目指す「阿部林業開発」の常務取締役であり、今治ロータリークラブの阿部真弓さんの仕事の内容や、家業を継ぐまでの経緯や、今治ロータリーの女性初の会員となられたロータリーでの活躍が書かれております。続きまして、13ページが一番下の部分「私の一冊」ということで、福島ロータリークラブの横山さんの投稿記事が書かれております。縦組みの16ページ、「福島喜三次のこと」ということで、日本初のロータリークラブを米山さんと一緒に作った福島さんのことをもっと知ってほしいという内容で書かれております。手短でしたが、これで紹介を終わりとさせていただきます。ありがとうございました。

○会計報告

寺島由和会員



皆様、こんにちは。会計からのご連絡です。今月ですね、ロータリークラブの会費の請求月となっております、ちょっと早いんですが4月25日火曜日に、皆様の口座のほうから会費のほうを引き落としさせていただきます。

それから、直接お振込み等いただく会員の皆様もご対応のほう、よろしく願いいたします。後程、事務局の吉田さんからご案内が届くかと思っておりますので、よろしく願いいたします。以上でございます。

■本日のプログラム

会員卓話

○大住由香里会員



皆さん、こんにちは。改めまして、大住です。本日は、医療福祉関係の卓話という形で機会をいただきました。皆さんにお話させていただくのは、医療福祉関係では二度目になるんですが、今回は施設の概要だったり、

サービスの内容だったり、どんな時にどんな場所どんな時にサービスが使えるかとか、どんな施設があるかというのをお伝えしたところではあるんですが。今日はどうしようかなと考えた時に、身近にある認知症の理解を深めていただければと思って、皆様に卓話をさせていただこうかと思ってパワーポイントとか作ってきたんですが、USBに全く入ってなかったという、すいません。資料、作ったつもりではいたんですが入ってなかった。写真だけがちょっとだけ残ってるので、その写真と追加で何かお伝えできればと思って、白河市からの冊子を持ってきたんですが、それを基にお話させていただければと思います。2025年には、65歳以上の方の認知症の数というのが5人に一人になると言われています。ここにいる方のテーブルに一人くらいはいらっしゃるようになるのか

なという、2025年にあと2年後くらいにはそういう状況になると言われています。65歳から介護保険というのも使えるようになるんですけども、それと同時に認知症に病気に罹るという方も多くなってきているという状況です。そういう意味では、どんどん身近なものになっていくのかなと思っています。認知症とはというところでお伝えできればと思ったんですけども、認知症には何種類か症状がありまして、症状という種類がありまして、アルツハイマー型認知症が一番耳にする言葉だと思うんですけども、これはタンパク質、アミロイドっていったかな。タンパク質が脳に溜まって、それが少しずつ溜まることによって細胞が失われていく。そして、脳が委縮していくというご病気です。脳の病気という形です。脳血管障害、脳血管性認知症というのがありまして、これは脳梗塞とか、くも膜下出血とか、そういった事で脳が破壊されるという、その後遺症として一部の脳が使えなくなることによる認知症です。これが全体の20%を占めるといわれています。アルツハイマーが多分60%。脳血管障害が20%。その他として、レビー小体型認知症というのがあって、レビー小体という、やっぱりタンパク質なんですけれども、それが溜まることで損傷を受けるという認知症です。レビー小体型の症状として一番わかりやすいのが幻覚を見る。いないもの、あそこに小さな子供がいるんだ、いつも来るんだよねというような子供を見たりとか、見えないものを見る。幻聴というよりは幻覚が大きくなっていくという症状があった時には、レビー小体型のかなという判断していったらと思います。あとパーキンソン病というのがあって、そういう症状になるというのがレビー小体ですね。パーキンソン病は、足がなかなか前に出ないというか、一歩が踏み出せないという状況の症状が出るんですけども、それが日によってとてもよく動ける時と悪い時がある。パーキンソンじゃないのにそういう症状が出たら、それを疑ってみるというもの一つだと思います。あと前頭側頭型認知症といって、前頭葉と側頭葉というんですかね。そこが委縮する。これは壊れるのではなく小さくなっていくというのがそういう症状です。あと、その他の認知症として、アルコール依存症、薬物中毒とか、あと慢性硬膜下血腫というんですかね。よくあるのが半年前ぐらいに転んだ、脳には特に異常はなかったんだけど、半年後、なんか認知症みたいな症状が出てきた。めまいがする。血圧が上がるみたいな感じで病院へ行ったら認知症ではなくて血種が出来ていたというところで、それは治る認知症と言われてます。その血種の部分を手術することで治る。あと水頭症とかも、そういう症状が出ると言われてます。一過性のもものでは、脱水だったりとか、夏に脱水を起こしてしまったりすると、そういう脳に委縮だったりとか、血流が行かなくなって認知症を起したりすると言われてます。そういう症状があるというのが特徴です。その症状というのが、例えば風邪でいえば咳が出るとか、お腹が痛い、下痢をするとか、そういう事だと思っていただくとわかりやすいんですけども。そこに、その方の性格とか素質だとか、あと環境だとかそういうものが入り混じると、皆さんが

よく目にするような暴力だったりとか、物盗られ妄想だったりとか、そういうものに繋がっていきます。要は、風邪をひいて咳をする。咳をして苦しいから寝込む。寝込んだら寝たきりになるみたいな。その寝たきりになったらトイレにも行かなくなって失禁してしまうみたいな、そういう症状が改善されないことによって、環境因子による問題が出てくることをBPSDと言っているんですけども。そこが出てくると家族さんは大変だというふうな感じになって、記憶がなくなってしまうたり、物盗られ妄想だったりすると、やっぱりお財布がなくなってというところが一番身近だと思えるんですけども、探すんですけど見つからない。そのうち、一番よく敵意をむき出しにする嫁姑の問題だと、嫁が隠したんだというふうな形になる。嫁もそんなことないって言って必死で探す。私じゃないよって出す。だけれども、ほらやっぱりあんた出してきたでしょうって、やっぱり盗んだでしょうっていうふうな感じで怒りに変わるみたいな、そういう環境とか関わり方で、そのBPSDが酷くなっていくというのが認知症の難しいところになります。不潔行為とかです。症状からするとトイレの場所がわからなくなったりとか、トイレに行くまでの歩行状態が落ちてきて漏らしてしまう。そういう時に漏れたものをどう処理していいかわからない、気持ち悪いから手で触ってしまう。処理の仕方わからなくて、お布団とか壁を汚してしまう。不潔行為になってしまう、大変だうちの婆ちゃん認知症なっちゃうって、いろんな症状あるんですけども、それはトイレを近くにすれば解決したりとか、あともちろんリハビリパンツをはけば解決したりだったとか、そういう関わり方でいくらか改善は出来ると言われてます。そういう環境が悪化する、私たちの関りが悪化することで、行動障害、心理症状という行動障害、心理障害というのが出てくると言われています。認知症の症状で記憶障害というのがあるんですけども、そこは新しいものが覚えられない、昔の事も思い出せなくなってくる。だんだん子供の名前だったりとか、年もわからなくなってくるというのが記憶障害。見当識障害というのがある、今いつなのか、時間が朝なのか夜なのか、季節が春なのか夏なのかかわからなくなってくるってなると、お洋服



が夏場なのにコートを着て出かけようとしたりとか、そういう症状が出てくる時はもう見当識障害が出てきたんだなって思っていくという私たちのサポートできる場所です。理解、判断力の障害というところで考える時間がかかってしまう。何言われてるかわからない、理解できないので怒りに変わる。わかんない

ことがわかんないと言えないので怒りに変わっていたりすることがあります。実行機能障害といって、段取りをすることができなくなる。よく言われるのが、台所の仕事が出来なくなる。ご飯を炊きながら普通だったらお味噌汁を作るのに、お湯を沸かしたり出汁を入れたりするんですけども、その順序がわからなくなってしまうという実行機能障害というのが出てくることで、だんだん生活の質が低下していく。なので、その障害を見極めること。何が出来なくなってきたんだろと見極めることが、私たちにとって大切なのかなと思ってます。そういった意味では認知症の方のご家族の心理状況というのが今度は心配になるところなんですけども。最初は戸惑いとしてというんですかね。あれ婆ちゃん何か変じゃない？みたいな感じで戸惑う。最近、料理味がおかしくないとか。いや、違うんじゃないとか。いや、大丈夫でしょ、ちゃんと受け答えしてるから大丈夫でしょという戸惑いとか、否定から始まるんですけども。次のステップに行くと、混乱とか怒り、拒絶。どう対応していいかわからなくなる。怒りで来たものを怒りで返してしまったりとか、それを受容できなくなったりで、こちらが不安になったり、怒りとか拒絶になってしまったりするところなんです。ステップ3になると、割り切りというんですかね。なんか怒ったってしょうがないよなみたいな、イライラしたってしょうがないよなというふうに割り切って行く段階に入っていて、ただいろんな症状が出るので、その割り切りと混乱を行った来た行った来た、また新しい症状が出たという形で一つ一つづつ割り切っていく受容していく。最後は受容になるんですけども、しょうがないねとこういうふうな生き方を選んだんだと受容していくというのが最後になるんですけども。それに到達するまでにすごく家族さんは混乱するという状況で、私たちは相談を受けます。なので、その時点でやっぱり施設に入りたいとか、仕事が出来なくなってしまったとか、そういう部分が出てくるので、そこは一つづつ家族さんの何が難しいのかというのをひも解いていって、サービスを提供するというのが必要になってくるんですけども、家族の場合だとやっぱりまわりに協力をお願いする。地域にもお願いするというのが、必要になってくるのかなと思います。私たちの施設でも、写真をちょっと、このお婆ちゃんなんですけれども、このお婆ちゃんは外に歩も出ない、お風呂にも入りたくない、多分一年くらいお風呂は入ってない、背中を娘に拭かせてくれるだけという形で相談に来たお婆ちゃんです。このお婆ちゃんをデイサービスに連れてきたからってお風呂に入るわけは到底なくて、ただこのお婆ちゃんは場所の認識がわかるので、そして自分が温泉が大好きだったというのわかるので、私たちはデイサービスでお風呂に入れるのではなくて、じゃあ「五峰荘」に行きましょうという形で、「五峰荘」に一緒に行くという計画を立てます。そうすると、迎えに行ったらお婆ちゃんは「五峰荘」に行くためにお風呂に自宅に入って、「五峰荘」に行くために美容室に行き、「五峰荘」に行くために毛皮を着て外に出てきてくれたというところがあるので、私たちは何がデ

イサービスで出来るかというのをすごく考えさせられる部分なのかなと思ってます。ケアという言葉は、もともとはその人の為に考える、寄り添う、気にかけるという言葉だそうです。ケアというのは、介助するか介護するとかではなく気にかけてあげる。今、彼女がどんな思いでいるのかというのを気にかけてあげるという言葉だそうです。私、このお話をする時に必ず自分のことでお伝えするんですけども、私が嫁に行った時にお婆ちゃんがありました。大きなお婆ちゃん、ばばちゃんって呼んでたんですけど、ばばちゃんがいて今80くらいだったと思います。私も介護職になりたてだったので、よくわからなかったというところがあるんですけども、ある時ばばちゃんが隠居に住んでたんですけど、洗濯機の使い方がわからない、洗濯機が壊れているって何回も私に言うようになってきて、洗濯機を見ると昔の二層式だった時の洗濯機と同じ使い方で蛇口を閉めてしまう、全自動なのに。普通だったら、全自動だと開きっぱなしにしてスイッチだけでやれてたものを、昔の感覚に戻ってしまったのか、蛇口を閉めるという行為をしてしまって壊れているという状況になったんですけど、それを私は良い嫁でありたいが為に、いいよ、ばばちゃん、私が洗濯してあげるよと言って、ばばちゃんの洗濯物は私が家でするようにしました。そのうち、ばばちゃんのご飯は作ってたんですけども、鍋を焦がすようになりました。鍋を焦がすから危険だからっていいよって、私たちご飯作って持ってってあげるからっていうようになりました。そしたら、ばばちゃんは洗濯もしない台所仕事もしなくなったので、やる事がなくなったので一日中外で草むしりをするようになってきた。そしたら、もう一日中草むしりをしてるので脱水になったりとか、時間の感覚もなくなったりとかで、脱水になれば先程言ったように認知症にもなるので、そのまま夢中になって草むしりをどこまでもやっていく。そうなった時に、今度は足腰が弱ってきたので転んでしまった。大腿骨を骨折してしまった。そして、病院にそのまま入院しました。そしたら、病院では白い天井をずっと見てたので、もう朝だか夜だか夏だか冬だか何だかもうわかんなくなって、一過性というか認知症が悪化したというところがあります。長い事入院すると認知症が悪化するよというのは、そういう事で刺激が全くなくなるので、ぼーっと壁を見てると本当に真っ白な世界になってしまうのかなと思います。それでそんな状況だったので、うちのお姑さんの名前を呼ぶんです。お母さんお母さんって呼ぶんで、看護師さんはそれで呼んでも来ないので、大腿骨骨折してるのにベットから降りようとするので、それは危険となって拘束されるんです。拘束されておむつで排便を促されるのでそこで排便をするんですけど、やっぱり気持ち悪くなって手を入れるんです。そしたら、手を入れたら汚れたものをシーツに拭うので弄便(ろうべん)というんですけど、便で弄ぶと書いてろうべんって言うんですけども、弄便行為が出たよと言われるんです。そして、もう認知症がひどいので家に連れて帰って下さいと言われて帰る状況になったんですけども、私も未熟だったのでばばちゃんの為に

ベットを入れたりとか、和式だったトイレを簡易の洋式に変更したりして、ばばちゃんのやりやすいようにしたら全く自分の部屋じゃなくなったので、また混乱してしまって、トイレも洋式になってるトイレを和式のように使って、トイレットペーパーをちゃんと付けたのに和式のように使ったもんですから、トイレットペーパーが後ろにある。今までは、和式の前のほうにがさちりというんですかね。がさちりがあったのに、それが無いということで、またお尻が拭けない、壁に塗りたくるみたいな、本当に悪循環な状況にしまって、すべてをやれなくなってしまいました。私が認知症の勉強をし始めて、すごく反省してばばちゃんの機能を、すいません。私、これ何度喋ってもダメなんですけど、奪っちゃったんだなって。ばばちゃんを駄目にしちゃったんだなって。優しさだと思ったら全く違って、人を一人駄目にしちゃったんだなって。洗濯もしない、食事もしないということは買い物にも行かない。隣の家のおじちゃんに、いつも買い物に連れてってと言ってたのにそれもなくなった。すべて社会交流を奪ってしまった。優しさで全部を奪ってしまったという状況になったので、本当に私は良かれと思ったことが全てばばちゃんにとってマイナスだったんだなって後ですごく悔やんで。だから、私は本当に日常生活の動作と一緒にデイサービスでやるというのは、そこからその原点で来ているんだなって自分で思ってます。なので、この写真にもあるようにデイサービスに来ていただくご利用者さんにはシーツ交換もしていただきますし、台所作業もしていただきますし、中にはお金を払っているのにこういう事をさせてという怒りをぶつけてくるお客様もいますけども、それでも私たちはやれる環境を作り上げていくというのが生活のリハビリだと信じてやっています。職員はシーツ交換だったり茶碗洗いは業務だと思ってるんですけども、うちはそれは業務ではなくて生活の一部としてやってもらうようにしています。業務は日誌を書いたりとか、送迎をすることだけでいいと。あとは、利用者さんと一緒に活動してほしいという願いをいつもいつもしています。なので、生活の一部としてスタッフの子供も連れてきています。こうやってお婆ちゃんがスタッフの子供をあやしてくれたりとかする姿が一番いいのかなと思ってます。このお婆ちゃんは統合失調症で、お若いんですけどもお会いした時には言葉話しませんでした。家にいて奇声を上げる方でした。ただ、デイサービスに来て時間をかけて活動を



していく、体を動かしていくということで機能が戻っていきました。本当にお風呂にも入れなかったんですけども、今ではこうやって台所仕事もしていただけるようになっていきます。こういうのが日常生活のリハビリと思ってます。このお婆ちゃんは片足がありません。言葉もよく喋れませんでした。施設内をずっと徘徊というか、いざってます。それでも利用者さんも含め仲間として関わっていくことで一緒に過ごすことができたんですけども、ある時違う施設にお泊りに行った時に、一日目で暴れたということで精神科の受診を進められました。これが良かったのか悪かったのか私にはわからないんですけども、精神科に行ってやっぱり落ち着かせるために精神薬を飲んで入院して薬を調整してる間に声も発しなくなりましたし、食事もしなくなりましたし、そういった意味で静かにはなりましたし、介護しやすい状況にはなりましたけれど、お婆ちゃんは寝たきりになってしまったという失敗例だったのかなと思ってます。私たちはお泊りの時に、何か手立てがあったんじゃないかなって思います。すべてのお泊りが悪いとは言いませんけれども、そういった必要性もあるんじゃないかなって思います。このお爺ちゃんは言葉はなかなか発することが出来ないんですけども、畑仕事が好きで時にはリハビリパンツ1枚でトラクターに乗って、迎えに行ったらトラクターに乗ってたなんていう状況のお爺ちゃんだったんですけども、お風呂も嫌がって入らなかったんですけども、お爺ちゃん背景を知ることをしたんですね。お爺ちゃんは何が好きなことだったんだろうとか、そうしたらお風呂が好きだった。でも、脱ぎ着が出来なくなってきたことへの不安だったり、脱げないというあせりだったり、そういうもので拒否が続くようになったと思ってます。ある時、お孫さんをすごく大事にしていた。一緒にお風呂にも入っていたというところでヒントを得て、うちのスタッフも子供にお願い演じてくれて言って、うちの子供を入れてくださいってお願いしたところ、どれどれと言って洋服を脱いで入ってくださったところの写真なんですけれども。そういうふういろんな環境を作り上げることで、その方の認知症の症状というのは薬に頼らなくても減少できるというんですかね。穏やかに過ごすことができると思ってます。奪うことなかれと思ってます。何でも危ないからやるんとか、そういう状況ではその方がいつまでも生き生きと生活できません。なので、私は自分のばばちゃんがそうなる前に、何で一緒にばばちゃんが料理してる時に子供でも一緒にコタツに転がしといて、「ばばちゃん、火、大丈夫。」という、その一言の声をかけてあげることばばちゃんの機能は残ったのに、なんで全部取っちゃったんだらうってすごく悔やまれます。本当にそういう一つ、たった一つの事でお年寄り混乱してしまうと思ってます。そして、徘徊についてもそうです。外に出てしまいます。この方は、帰りたい願望なんですけれども、いつも付いて歩くところなんですけれども、ご自宅から出て徘徊してしまうという場合も同じで、やはり警察に保護される方も多いです。ただ、警察は怒るといふか叱るといふか注意を

するそうです、家族さんに。外からも鍵閉めといたほうがいいですよ、2回目ですよと。かって。そういう叱りをお怒りを受けて、家族さんはもう周りに迷惑をかけられないなと思って施設入所を決めるんですけども、そうではなくて地域でこのお爺ちゃんが歩いたら、このお婆ちゃんが歩いたら守ってあげようと、この方に連絡してあげようという体制が整えられる白河市になればいいなと思って、私はずっとこういうふうフェイスブックとかで発信をしているところでもあります。私も警察の方にお叱りを受けたことがあります。今日、デイサービスの日なのに何で歩いているのと、怒られた時がありましたけども。自宅で来ないお爺ちゃんを無理やり引っ張って連れてくることで暴力に変わるとわかっているんで、何回も何回も迎えに行きました。気が向くまで迎えに行きました。普通の施設はなかなかそういう事は出来ないと思うんですけども、そういった事で家族さんも守れるのかなと思って、何回も何回も迎えに行くことはしました。お昼になることも、帰り際の3時になることもあったんですけども、そのお爺ちゃんのリズムを理解して、こちらの管理をしないということやってきました。なので、ご自宅でもしおかしなとか、そういう状況があったら、まずはそっと寄り添ってあげてください。一緒に付き合ってみてあげてください。したら、必ず必ずその方の訴える思いがわかると思います。傾聴する、耳を傾ける、単に耳ではなく傾聴という私たちは伝えてます。寄り添うということで、少しでも認知症の症状の持っている皆さんが優しく不安なく過ごせていける白河市を目指したいと思っております。是非機会があれば白河市でもやってます、オレンジプランとかやってるんですけども、そういうセミナーを受けていただいてサポーターとして動いていただければ幸いです。今日は時間いただいて、ありがとうございました。

